

第4号様式（第10条関係）

会 議 録（要 旨）

会 議 名	第2回 武蔵村山市長期総合計画後期基本計画市民懇談会
開 催 日 時	平成26年 5月21日（水） 午後7時から午後9時まで
開 催 場 所	武蔵村山市役所 403集会室（市役所4階）
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：委員（13名） 澤田座長・有吉副座長・猪股委員・高附委員・山崎委員・ 眞崎委員・細井委員・杉森委員・山田委員・原野委員・ 原田(妙)委員・原田(裕)委員・齊藤委員 欠席者：なし
議 題	1 報告 （1）第1回長期総合計画後期基本計画市民懇談会の会議要旨について （2）市民懇談会での検討内容とスケジュールの補足について 2 説明 （1）検討テーマの確認について （2）検討テーマシートの見方について 3 議題 （1）討議及び意見交換 ア 地域コミュニティにおける自治会の役割 イ まちづくりにおける市民参加 ウ 自然災害に強いまちづくり エ 健康づくりについて （2）その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	1 報告 （1）第1回長期総合計画後期基本計画市民懇談会の会議要旨について ・第1回市民懇談会の会議要旨について承認 （2）市民懇談会での検討内容とスケジュールの補足について ・検討内容とスケジュールを確認 2 説明 （1）検討テーマの確認について （2）検討テーマシートの見方について 3 議題 （1）討議及び意見交換 ア 地域コミュニティにおける自治会の役割 イ まちづくりにおける市民参加 ウ 自然災害に強いまちづくり エ 健康づくりについて ・「健康づくりについて」は宿題として、次回に意見交換を行うこととなった。 （2）その他 ・アイデアや意見等がある場合は、随時事務局まで連絡をするものとする。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	1 報告 （1）第1回長期総合計画後期基本計画市民懇談会の会議要旨について （座 長）事前に配布されていた会議要旨については、意見、質問等はあるか。特になければ承認ということになるがよいか。 （委 員）異議なし。

<結 論>

- ・第1回市民懇談会の会議要旨について承認

(2) 市民懇談会での検討内容とスケジュールの補足について
(事務局) 資料2「市民懇談会での検討内容とスケジュール」について説明

－質疑・意見等－

(座 長) 検討内容・スケジュールの確認について意見はあるか。

(委 員) 前期計画の具体的な到達点の提示がないと、今後、どこに力を入れていけばよいかかわからない。

(事務局) 本日の資料の中にテーマ毎のシートに「成果指標」として整理している。これが現段階の到達点と考えている。

(座 長) これからは、テーマ毎に「成果指標」も含めて議論をしていく。進め方については、8回開催し、月1回のペースで、努力目標として進めていく。

<結 論>

- ・検討内容とスケジュールを確認した。

2 説明

(1) 検討テーマの確認について

(2) 検討テーマシートの見方について

(事務局) 資料3「検討テーマシートの見方」について説明及び事前配布資料の確認

(座 長) 議事の前に提出された資料の説明を原野委員にお願いする。

(委 員) 市民意識調査の概要1の説明

－質疑・意見等－

(委 員) 市民意識調査の概要を整理したことでわかったことは、第三次計画から4回の意識調査を行っているが、回収率で対人比が1.70%から0.90%と下がってきている。市の上位計画の意識調査として回収率を上げる努力が大切ではないか。次回以降に参考にしていただきたい。回答年齢、居住年数、持家率を見てみると、落ち着いた年齢ということは、定住意向は意外と低いのではないか。定住したくない理由は何かを考える必要がある。共通していえることは武蔵村山市には自然環境があり、郷土愛を繋げていくことが大切ではないかと感じている。

(座 長) 定住率などについては、他都市との比較ではどうなのか。

(事務局) 定住意向については、近隣市よりは高い傾向にある。

(委 員) 三多摩地域のデータがあるが、定住率は、武蔵村山市は何番目に当るのか。

(座 長) 事務局は、具体的な数字を次回までに情報提供されたい。

(委 員) 平成21年度と平成25年度で調査対象者が異なると比較できない。原則であり、注意してほしい。

(委 員) 資料5「武蔵村山市意識調査の概要」のP5の数値の出し方がわからない。また、各回の統計の仕方が異なるのは比較しづらい。

(事務局) 意識調査概要について説明

3 議題

(1) 討議及び意見交換

ア 地域コミュニティにおける自治会の役割

(事務局) ア 地域コミュニティにおける自治会の役割とイ まちづくり
における市民参加について資料説明

—質疑・意見等—

(委員) 意識調査の中で「市民参加は難しい」というのはどういうことか。

(委員) 「市民参加が難しい」となぜ考えているのかという調査をしなかったのか。

(委員) 選択肢からの選択自体が難しいのではないかと。東村山市の自治会加入率は52.6%で、高い数字となっている。しかし、自治会加入率の低下は全国的な推移で、少子高齢化や人間関係の煩わしさによると思う。東村山市では、自治会加入マニュアルというものが作られている。加入することでどのようなメリットがあるか、又は情報の提供等役立つものが必要である。自治会も努力しているが、東村山市にヒアリングして、良い所を真似してもよいのでは。

(座長) 現在、武蔵村山市の自治会加入率は三多摩地域で最下位となっている。自治会加入率を上げるための方策として自治会加入マニュアル等を作成するなど武蔵村山市でも積極的に施策を展開しているが、委員のみなさんのアイデア等を加えて後期基本計画を作成していきたい。

(委員) グローバルという時代の中で、地域にいないといけないという理由がない。少子高齢化の時代に産業は海外に出て行くが、農家はその土地で生産し生活している。みなさんの生活の中で自治会をやる理由が無いということではないか。

(委員) 資料6「意識調査」のP1の「自治会についての考え方」で、「とても重要である」と「どちらかと言えば重要である」を足すと約40%もある。「どちらともいえない」が27%と少ない。重要性については意識していると思われるが、入らない何らかの原因があるのかも知れない。

(委員) 自治会長をやっていたが、自治会をやめていく人が多く、理由を聞くと「役員の順番が回ってくるから」のほかに、子どもが学校に通っている間はPTA等もあり参加しているが卒業するとやめていく人が多い。また入るメリットが無いと考えられている。自分のいる自治会は、納涼会などを行っていたが、やはり入ってよかった、または役に立ったという実感が重要である。

(委員) 市民参加やコミュニティの不足等が現状である。魅力ある自治会のあり方等、基本方針だけではなく、具体的なアイデアを出すのがコンサルの役目ではないか。

(委員) 魅力ある自治会は、何かをやろうとすると委員の負担が大きくなっていくので、難しいのではないかと。

(委員) 負担以上の喜びが必要である。そういうアイデアがあれば、加入率は増加し、魅力も高まる。市の中で加入率が低いところはどの辺りなのか。どういう地域が住みやすく、住み続けられるのか。東村山市の自治会加入率は52.6%ということであり、他市から学ぶ必要がある。どのような所が住みやすいのか等を調べる必要がある。

(委員) 自治会イコール老人会のイメージが強い。子育て世代など若い人も加入しやすい取組が必要であると思う。

(委員) 自治会は、老人が多いのは事実である。若い人は入りたくない

人と、興味はあるが、忙しいから入らない人とに分けられる。自治会員でないと、情報提供や回覧等もスムーズにはいかないこともある。役員をさせられるのは嫌だからと脱会をする人がいるが、ごみ置き場の輪番等の問題もあり、加入は自由だから脱会も自由であると考えるのは、自由が過ぎると思う。自治会の活動は、青少年の健全育成や、見守り活動、地域のまつりなど多くの費用がかかる。都の補助などもあるが、人手が足らず、申請が間に合わないこともある。今の人たちには、自分たちでまちづくりをするという意識が足りないのではないか。何かしら加入を促すきっかけづくりがなければ、加入してもらうのは難しい。

イ まちづくりにおける市民参加

(座長) 市民参加の仕組み等についての意見はあるか。

—質疑・意見等—

(委員) 質問であるが、政策の評価の「地域コミュニティ活性化策の検討」がAランクというのはどういうことか。

(事務局) 協議会の検討は終了しており、検討した内容として、今後は、小学校区域を単位として地域まちづくり会議を展開していく。

(委員) 学校のコミュニティスクールとは違うのか。

(事務局) それとは異なるものである。コミュニティスクールについては、新しい学校づくりの仕組みとして全小中学校で対応している。

(委員) 進捗状況の中で完了の解釈の仕方がわからない。

(事務局) 施策によって多少捉え方に幅があるが、例えば、前期計画で検討を終え、後期計画はそれを受け事業を展開していくことになる。

ウ 自然災害に強いまちづくり

(事務局) 自然災害に強いまちづくりについて資料説明

—質疑・意見等—

(委員) 防災は予防と減災が重要である。過去に震災を経験しているが、大震災での死亡理由は「焼死」が多い。3日後には火災で亡くなった方の遺体収容などが必要となる。消火に当たっては、狭隘道路や違法駐車があると作業が難航する。現在、道路の整備が進められているが、最低幅員4mでは、火災の延焼には対応できないので、道路の拡幅整備を進めてほしい。また、消防団員の定数確保が問題となっている。

(委員) 市内には災害特別地域等はあるのか。急傾斜地や狭山丘陵地等はどうか。

(委員) この地域の災害に対する把握が必要である。

(事務局) ハザードマップは作成している。

(委員) 多摩ニュータウンは丘陵地の上に造成されているので、危ないのではないかと。狭山丘陵地は幸い人の手が入っていないため安全ではないかと思う。一部田んぼを埋め立てて建てられた宅地も見られる。宅地が増えると雨水があふれる。空堀川や残堀川の河川改修が進められているが、現在は1時間に50mm対応と聞いている。温暖化の中、ゲリラ豪雨等があり、大丈夫か心配である。

(事務局) 都管轄事業で進めているが、都では、多摩地区を降水量1時間

60mmで対応することを検討中と聞いている。

(委員) 前期計画は、前回の震災の前に策定している。防災対策は大丈夫なのか。

(事務局) 震災後に地域防災計画を見直している。順序は逆になるが、後期基本計画にフィードバックする必要がある。

(委員) 資料の中で震災の記述があるが、曜日を入れてほしい。平日か休日かが分かったほうがよい。

(委員) 防災訓練を9月に行っているが、参加者はサンダル履きや半そで等で参加している。災害に対する意識が低いのではないか。

(委員) 防災に対して広い意味で、自然環境を考える必要がある。河川改修整備で雨水が川に流れていくということは水という資源を無駄にしているということである。村山に降る雨は村山で処理する必要がある。雨水浸透柵等の対応が必要。他市では、各家庭に補助金を出して設置を促している。避難所の確保や道路の整備よりも、根本的な防災意識の立て直しが必要ではないかと思う。

(事務局) 河川等流末のない道路については、計画的に浸透柵の設置を実施している。また、現在の宅地開発時の義務として敷地内の水は浸透柵で処理を行っている。武蔵村山市では浸透柵の補助は実施していない。

(委員) 防災計画で必要なガレキ置き場を決めておく必要がある。

エ 健康づくりについて

(事務局) 健康づくりについて資料説明

—質疑・意見等—

(副座長) 施設中心のセンター型だけでなく、武蔵村山市の緑、自然環境を売りにした健康づくりを進めたらどうか。施設と施設を繋ぐようなネットワークが必要で、生活密着型の健康づくりを進めてみてはどうか。

(座長) 時間となったので「健康づくりについて」は次回の宿題とする。

<結論>

・健康づくりについては「宿題」として、次回も意見交換を行う。

(2) その他

(事務局) 懇談会後にアイデアや意見等があれば、随時事務局までお寄せいただきたい。

(委員) 定住率や自治会加入率など地の自治体の情報を提供してほしい。

(副座長) 東村山市のマニュアル等他市の取組についても、参考としたい。

(終了)

